

一人一人の良さが輝く 魅力ある学校づくり

太子町立中学校



▼生徒会活動（学校はMSPを学ぶとJUN）
▼検討会議について。

▼未来を生きる力を育む生徒主体の授業づくり
▼学び続ける教師集団を目指して。
▼普段の授業から非認知能力を育むことを意識。

▼生徒指導
▼非認知能力を育む太子中伝統「業間運動」。
▼一人も見捨てない居心地の良い学校を目指して。

▼学力向上
▼確かな学びを育む取り組み。
▼生活委員会に呼びかけ、勉強の仕方・学校生活の困り感などの疑問に答える「壁新聞」の作成。

▼支援教育
▼自立活動の栽培活動を通して育てる非認知能力
▼学年でつきたい力…見える化シート①の作成。
▼行事でつきたい力…見える化シート②の作成。
▼キャリアパスポートで自己評価・自己認識。

【学校概要】
◆教育課程（学年運営・学級運営・授業・行事・部活動など）のすべてが、学校教育目標につながるように意識をす

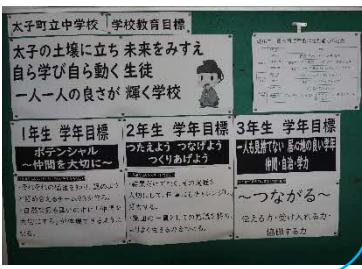
太子町立中学校 学校教育目標
太子の土壌に立ち 未来を見据え
自ら学び 自ら動く生徒
一人一人の良さが輝く学校

わがまち

『非認知能力の育成』を軸としたカリキュラムマネジメント（学習効果の最大化）の構築

◆学年でつきたい力…見える化シート①の作成、生徒玄関に掲示。

- ▶何のために学校があるのか？
- ▶どのような学年にしたいのか？
- ▶この1年でどのような力をつけさせたいのか？
- ▶そのためには何を意識して取り組むべきなのか？（学年開きで学年教師、生徒に伝えること）



◆行事でつきたい力…見える化シート②の作成、職員室に掲示。

- ▶この行事は何のためにあるのか？
- ▶この行事を通してつけさせたい力は何か？
- ▶そのためには何を意識して取り組むべきなのか？（行事を始める前に生徒に伝えること）



◆キャリアパスポートの作成、各学期、行事での自己評価

- ▶自らの学校生活を見通したり、振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価・自己認識すること。
- ▶個人で伸ばしたい力・つきたい力を決める。（7つの非認知能力より選ぶ）



支援教育（あおば学級）

自立活動「栽培活動」を通して育てる非認知能力

- ◆【4月中旬】
どの野菜を育てるかをあおば学級メンバーで協議する。（伝える力、受け入れる力）
- ◆【4月末】
種・苗を自分たちで買いに行く。（協働する力）
- ◆【5月上旬】
耕運機、クワを使って自分たちで畑の土壌、畝づくり、種まき、苗植え。（自分を調整する力、あきらめない力）
- ◆【7月】
野菜の収穫、収穫した野菜を教職員に販売。（協働する力、挑む力）

*あおば学級では、自分の役割を責任をもって果たす力を伸ばすことを目標としています。野菜を育てるという自立活動を通して、一人ひとりの必要な支援につなげています。自立活動を通して、自分の役割を果たすことが、みんなのためになることや、みんなと協力し、達成する喜びを大切にしています。



学力向上

確かな学びを育む取り組み

◆本校の学力課題

- ▶思考・判断・表現力を問われる問題の正答率が低い。
(全国学力・学習状況調査調査より)
- ▶主体的に学習に取り組む力の育成。

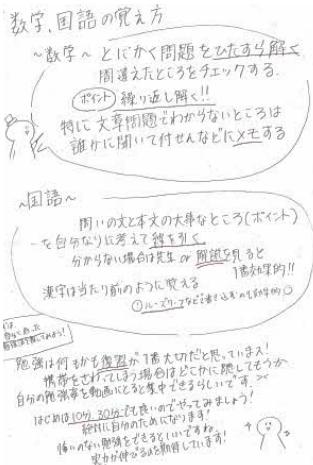


『卒業時までにつける力』を明確にする。

⇒卒業時までにつける力を、逆向きで設計図を作り、計画通りに進んでいるかを見直し、全体で共有しています。そのための教科会議を持ち、学期ごとの見直しを実施しています。



確かな学びを育む生活委員会（生徒間）の取り組み



◆1学期

生徒会と新聞委員会が共同で、「1年生向けに、中間テストに向けての学習方法や、中学校生活で困っていないか」についてのアンケートを取り結果を壁新聞として掲示しました。2・3年生は、自分たちの学習方法を確認し合い、参考になる取り組みを紹介しました。

◆1・2学期

図書委員会が中心になり、学校図書室にある本「ノートの取り方」「〇〇の勉強法」などを、ポップやスライドなどにまとめ、学習方法の参考になる取り組みとして紹介しました。



長文読解のコツ

- ①線を引ながら読もう！（キーワードなどに）
- ②設問の下線を長くのばして答えを探せ！
- ③記述式の問題は書き直しをする。

引用：中学生の「合格ノート」
教科別必勝ポイント55

読解問題は「根拠を持って解答する」意識をつけることが大切！



生徒指導

非認知能力を育む、太子町立中の伝統『業間運動』



◆「業間運動」は、30年以上続く太子中伝統の取り組みです。集団行動を通して、他人への思いやりの気持ちを大切にしています。

「自分と向き合う」「自分を高める」「つながる」という非認知能力を意識しています。

校内支援教室「あゆみルーム」



◆一人も見捨てない居心地の良い学校を目指して「あゆみルーム」…教室に入りにくい、集団が苦手な生徒が安心して自分のペースで学べる場所。（R4年9月～）

▶自分の時間割を決め、ホワイトボードに記入。
⇒自分の行動を自分で決定する。（自分を調整する力）

▶担任や学年の教師、養護教諭、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど、多くの先生との関わりを通して、「目標・夢を持つ力」「伝える力」「協働する力」などの非認知能力の育成につなげています。

未来を生きる力を育む 生徒主体の授業づくり (令和5年度校内研究テーマ)

学び続ける教師集団を目指して



◆相互授業参観の実施

- ▶参観前に、工夫している点は？
- ▶意識している点は？
- ▶ギミックは？（工夫）
- ▶振り返りは？

*参観者と授業者が、その授業参観前に様々なことを知ることによって、お互いに内容を意識してポイントを絞り、研修を深める。

普段の授業から非認知能力を育むことを意識

◆「教科ごとに考える非認知能力」の研修を計画的に実施。

- 講師：徳留宏紀さんとオンライン研修（7/20）
- ▶振り返りの重要性
 - ▶非認知能力の「見える化」
⇒ルーブリックの作成
 - ▶取り組んだことの情報交換（9/6）



生徒会活動（学校はMSPを学ぶところ）

太子町立中学校検討会議

◆学校はMSPを学ぶところ

- ▶「私たちが毎日通う『学校』って何だろう？」
- ▶「どうして『学校』があるのかな？」について生徒会を中心に考えることに。



最終的に「学校はMSP = (非認知能力) を学ぶところ」という結論に
M(目に見えない) S特別な(specialな) P(プラス)
▶目に見えるわかりやすいプラスだけではなく、一見、マイナスに思うこと(悩みやトラブルなど)も、とらえ方や意識次第で自分のプラスになるという考え方のことです。なので、学校生活の様々な出来事はプラスになることだととらえ、それらを学ぶ場所が学校であるという結論になりました。

太子町立太子中学校検討会議を設け、学校内の具体的なこと（校則、行事、生活等）について考えていく場を設置しています。学校は生徒、教師や、様々な人がいて成り立っており、その全員で話し合う場として設定しています。保護者の方にも関わってもらうことも考えており、今後、みんなで一緒に考えていく、力を合わせていくような場にしていきたい。

